

環境報告書

2022



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学

環境報告書2022 目次

滋賀大学環境方針	
基本理念・環境方針	2
環境マネジメント	
エネルギー管理組織図	3
環境配慮行動実施計画	4
環境パフォーマンス	5
原油換算エネルギー使用量	
エネルギー使用割合	
電力使用量	
水道使用量	
ガス使用量	
廃棄物等による環境負荷低減	7
廃棄物排出量	
石綿（アスベスト）等	
ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理状況	
環境マネジメント活動の推進	8
コピー用紙等購入量	
ごみの分別収集	
クリーンキャンパス	
照明のLED化	
キャンパス内の全面禁煙について	
環境教育の推進	10
1. 講義全体が「環境」に関する開講科目	
2. 部分的に「環境」をテーマに取り入れた開講科目	
大学概要と本報告書の対象範囲	14

滋賀大学環境方針

A. 基本理念

滋賀大学は、琵琶湖を擁した滋賀県に立地する大学として、環境保全を最重点課題として積極的に取り組み、キャンパスからの環境負荷の低減をはかり、自然との調和をかなえる魅力あるキャンパス作りをめざす。

また在学生・卒業生が社会で環境課題に関わって指導的な役割を果たすことができるように、大学の教育・研究内容に工夫をこらし、環境マインド、環境スキルを主体的に身につけ、地域や職場でその力量を発揮できる人材を養成することをめざす。

B. 環境方針

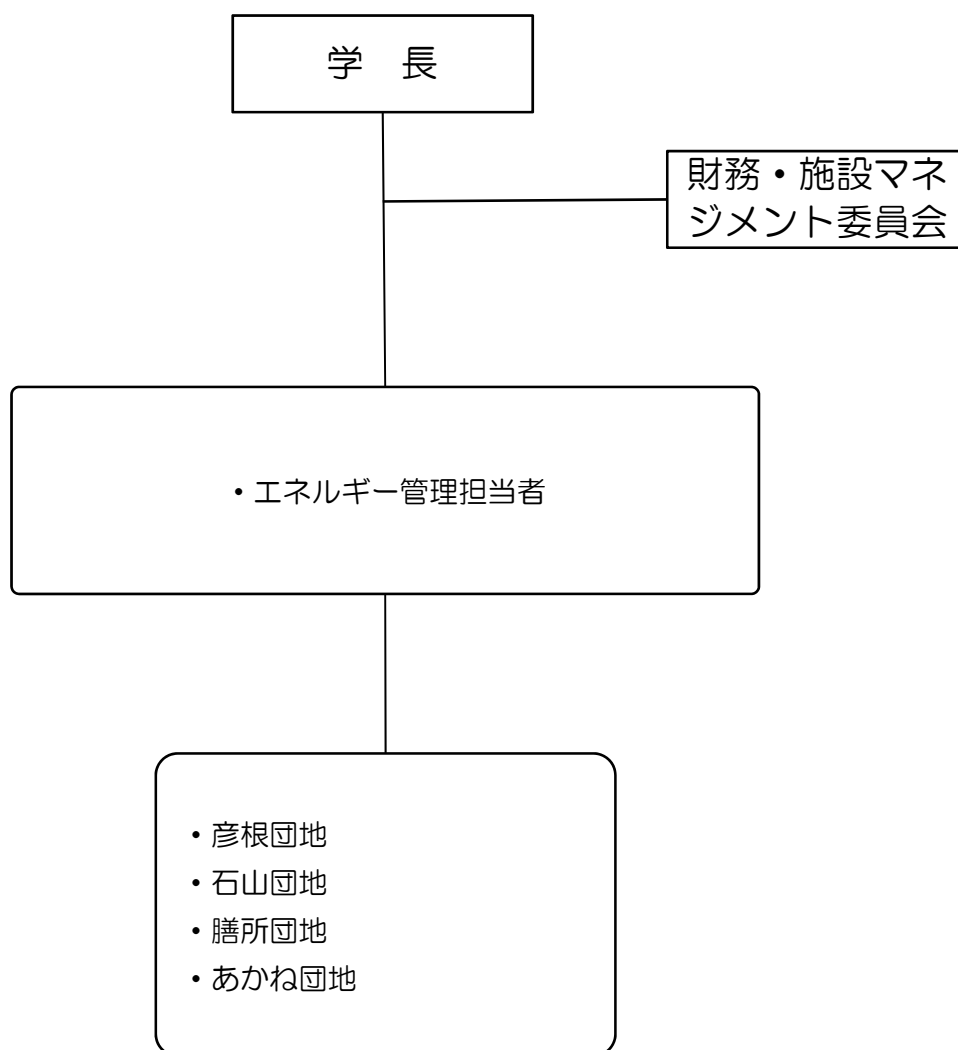
1. 琵琶湖を擁した滋賀県に立地する大学として、キャンパスから環境への負荷を低減し、予防していくとともに、環境に配慮した教育・研究を推進し、環境課題に関わって指導的な役割を果たすことができる人材を養成していく。
2. 滋賀大学の構成員は、その活動に適用される環境関連法規、規制、協定などを遵守する。
3. この環境方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、構成員は一致してこれらの目的・目標の達成と見直しを図る。
4. 環境監査を実施して、環境マネジメントシステムを見直し、継続的改善を図る。

この環境方針は文書化して、構成員に周知するとともに、大学内外にも開示する。

平成 22年 5月 11日

国立大学法人 滋賀大学

エネルギー管理体制図



※環境報告書の記事等については、教職員の協力を得て作成しています。

環境配慮行動実施計画

■省エネルギー・省資源の推進

- エネルギー使用量・温室効果ガスの削減
(実施計画)
 - ・エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。
 - ・掲示物等で省エネの啓発を行う。
 - ・廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のLED照明器具への更新、省エネに配慮した機器、システムの導入を推進する。
- 水使用量の節減
(実施計画)
 - ・掲示物等で節水の啓発を行う。
 - ・トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。

■廃棄物の抑制

- 一般廃棄物の排出抑制
(実施計画)
 - ・分別回収を徹底強化する
 - ・掲示によるマナー啓発活動を展開する。
- 用紙使用量の削減
(実施計画)
 - ・用紙の両面利用を推進し、使用量の削減を図る。
 - ・学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。

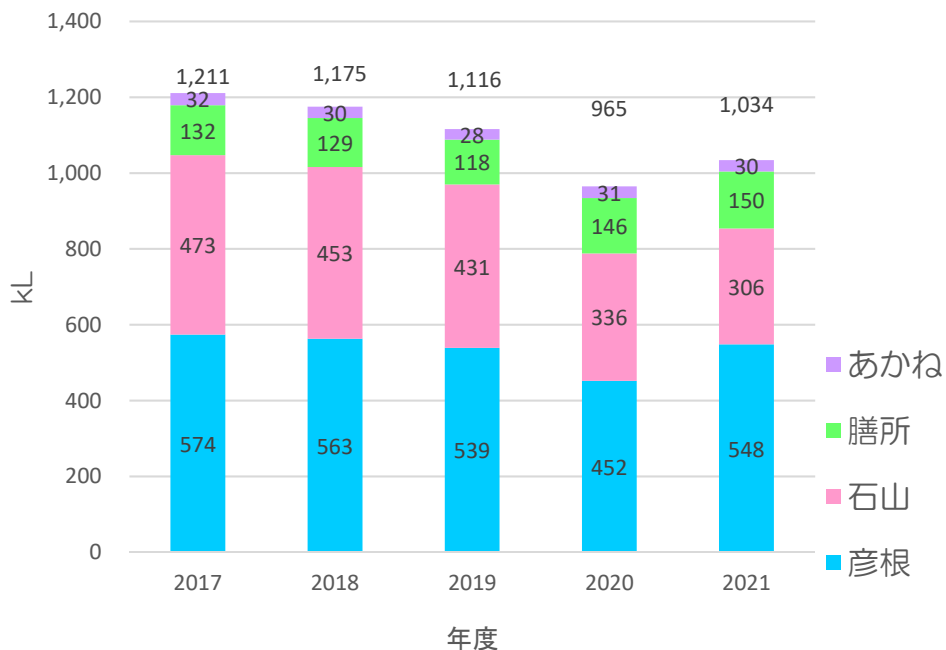
■学内美化

- ゴミの一斉収集と雑草の刈り取り
(実施計画)
 - ・クリーンキャンパス（教職員と学生による一斉構内及び周辺の清掃と雑草刈り）を年1回実施し、環境美化を図る。

環境パフォーマンス

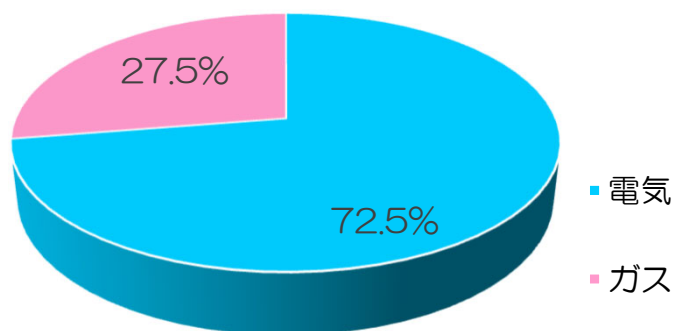
原油換算エネルギー使用量

本学で使用している電気、ガスを原油換算したエネルギー使用量の推移を表しています。2017年度以降減少傾向とになっていましたが、2021年度は前年度より増加しています。



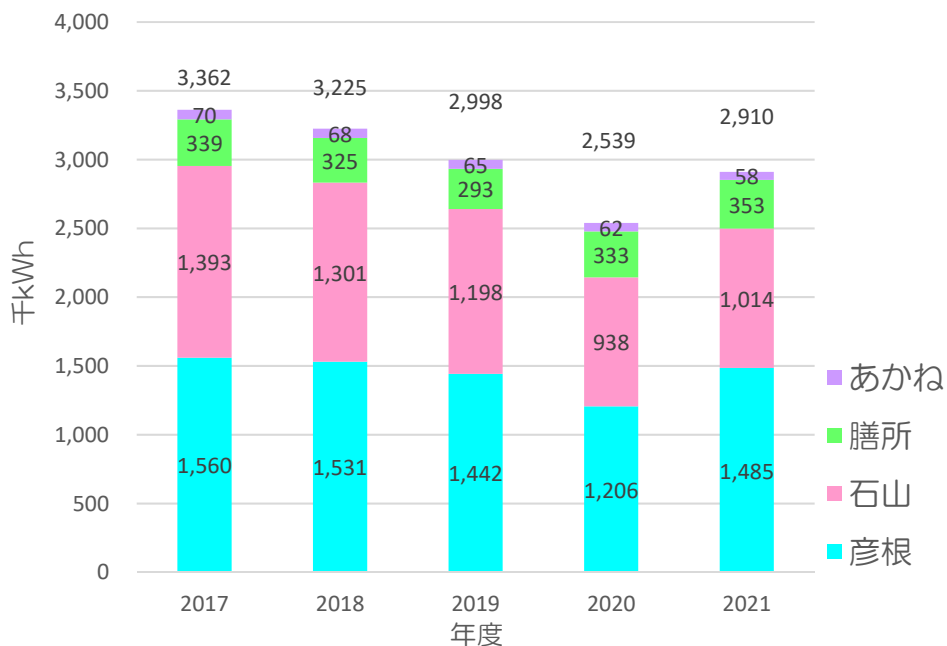
エネルギー使用割合

電気、ガスの使用量を原油換算してエネルギー使用量を比較すると、電気の割合が約72.5パーセントと高いことがわかります。重油の使用はありません。



電力使用量

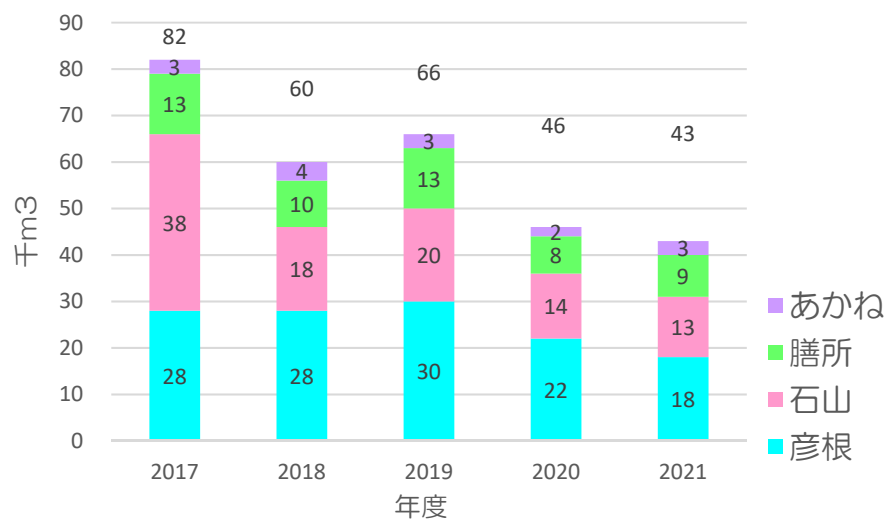
節電努力等により、電力使用量は年々減少傾向にあります。しかし、2021年度は前年度比で14.6%増加しています。コロナ感染拡大防止によるオンライン授業から対面授業が増えたことが要因の一つと考えられます。石山団地の空調設備がボイラから電気式に更新したため今後増加が見込まれます。



環境パフォーマンス

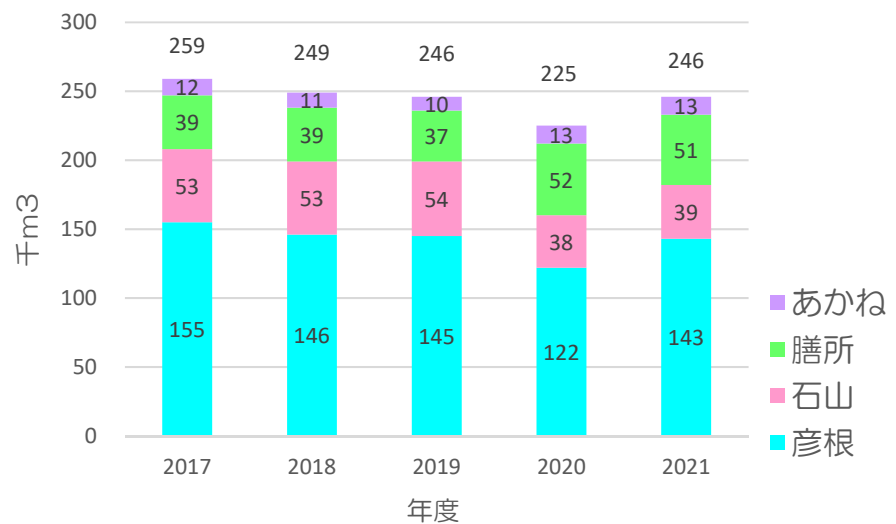
水道使用量

2017年度以降概ね現状傾向にあり、2021年度は前年度比約6.5%減少しています。



ガス使用量

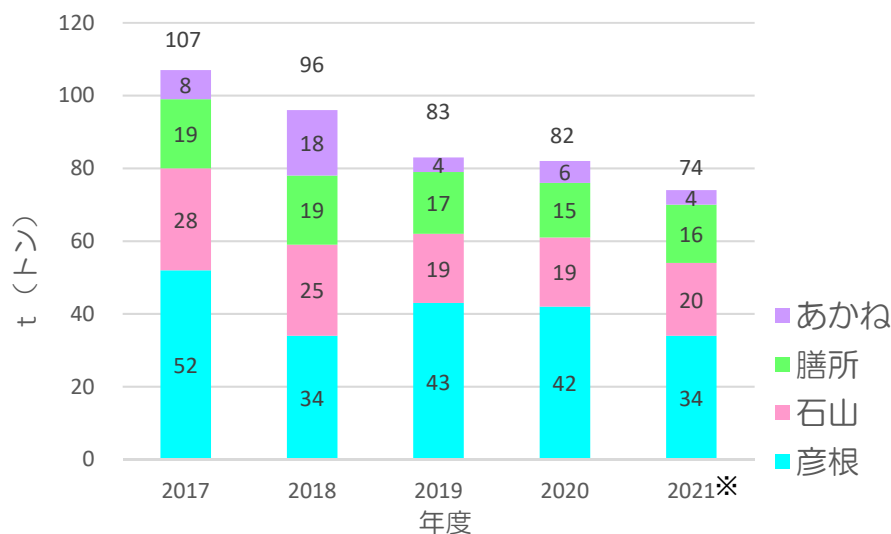
ガス使用量は、2017年度より、減少傾向にありましたが、2021年度は前年度に比べ、約9.3%増加しています。コロナ感染拡大防止によるオンライン授業から対面授業が増えたことが要因の一つと考えられます



廃棄物等による環境負荷低減

廃棄物排出量

廃棄物排出量は、2017年度以降は減少傾向にあります。



※2021年度の排出量について
廃棄物は可燃、不燃、粗大ごみ別に集計しているが、粗大ごみについてはt換算ができないため、加算されていない。

石綿（アスベスト）等

本学において、非飛散性アスベストが含まれる建材や実験機器等を処分する際には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適正な処分を行っています。

ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理状況

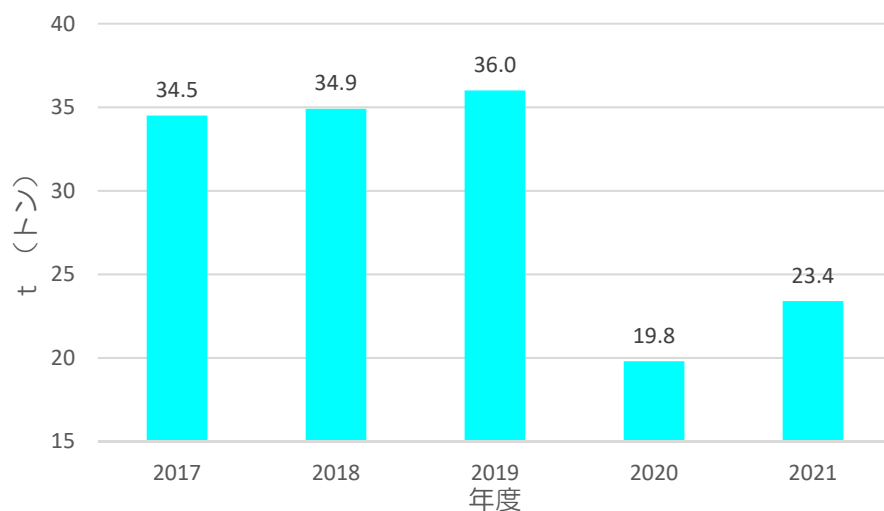
「ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、PCB廃棄物の保管・運搬・処理においては、適切な対応が必要となっています。

滋賀大学では、学内に管理・保管していた蛍光灯安定器、高圧トランス等をPCB含有廃棄物として、平成29年（2017年）12月に処理を完了しました。また、2019年度に新たに発見されたPCB安定器一つについては、2021年7月に処理を完了しました。

環境マネジメント活動の推進

コピー用紙等購入量

2015年度以降の年間コピー用紙等購入量は、35トン程度で推移していましたが、2020年度は前年度比で45%ポイント減となりました。会議のペーパーレス化とコロナ対策によるオンライン授業・会議が減少が要因と考えられます。2021年度約18%ポイント増加しており、対面機会の増加が要因の一つと思われます。



ごみの分別収集

滋賀大学では、ごみの分別収集に取り組んでおり、可燃、不燃（廃プラスチック類）、ビン・カン、ペットボトル等に分けてごみ箱を設置しています。



クリーンキャンパス

彦根地区・石山地区では、それぞれ年1回、教職員と学生により、一斉清掃を行っています。



環境マネジメント活動の推進

照明のLED化

省エネルギー対策として、改修工事時に電気使用量の削減が見込まれる照明器具のLED化を進めています。

2021年度は、大津キャンパスの人文・社会・教育棟、自然科学棟、研究棟の照明器具をLED化しました。



人文・社会・教育棟 研究室



自然科学棟 実験室



研究棟実験室

キャンパス内の全面禁煙について

学生及び教職員の更なる健康増進の観点から、2019年5月31日より、すべてのキャンパスを「全面禁煙」としています。

環境教育の推進

滋賀大学では、「環境」に関する科目を開講しています。

◎科目名に「環境」が含まれる開講科目（2021年度）※シラバスより抽出

教養教育

科目名	担当教員	開講期
環境問題を学ぶ	中野 桂, 和田 佳之, 松下京平	秋学期
環境教育概論	石川 俊之, 市川 智史, 森太郎, 久保 加織	秋学期

教育学部

科目名	担当教員	開講期
環境（指導法）	山本 一成, 中井 清津子	春学期
デジタル環境とメディア	松原 伸一, 松原 伸一	秋学期
住生活と環境	平手 小太郎, 田中 宏子	春学期
環境社会学	宮本 結佳	春学期
社会環境演習Ⅰ	宮本 結佳	春学期
社会環境演習Ⅲ	宮本 結佳	秋学期
衣生活と環境	與倉 弘子	秋学期
環境教育基礎演習Ⅰ	石川 俊之, 森 太郎, 與倉弘子	秋学期
環境教育基礎演習Ⅱ	森 太郎, 石川 俊之, 久保加織	秋学期
湖沼環境学習論	石川 俊之	春学期
水環境教育実習	石川 俊之	春学期
水環境教育実習	石川 俊之	春学期
環境学習計画論	市川 智史	春学期
環境教育演習Ⅰ	石川 俊之	春学期
環境教育演習Ⅱ	森 太郎	春学期
環境教育演習Ⅲ	石川 俊之	秋学期
環境教育演習Ⅳ	森 太郎	秋学期

経済学部

科目名	担当教員	開講期
環境経済学Ⅰ	松下 京平	春学期
環境経済学Ⅱ	松下 京平	秋学期
環境法	坂田 雅夫	春学期

環境教育の推進

データサイエンス学部

科目名	担当教員	開講期
環境・交通・都市政策論	加藤 博和	秋学期

大学院教育学研究科（修士課程）

科目名	担当教員	開講期
環境教育特論	市川 智史	春学期
環境教育課題研究	市川 智史	通年
環境教育課題研究	久保 加織	通年
環境教育課題研究	松田 隆典	通年
環境教育課題研究	石川 俊之	通年
環境教育特論演習	市川 智史	秋学期
地域環境教育特論	森 太郎	春学期
地域環境教育特論演習	森 太郎	秋学期
地域社会環境特論	松田 隆典	春学期
地域食生活環境特論	久保 加織	春学期
地域住生活環境特論	田中 宏子	春学期
地域衣生活環境特論	與倉 弘子	春学期
環境生態学特論	石川 俊之	春学期
環境生態学特論演習	石川 俊之	秋学期
環境教育特論	市川 智史	春学期
環境教育課題研究	市川 智史	通年
環境教育課題研究	松田 隆典	通年
環境教育課題研究	石川 俊之	通年
環境教育特論演習	市川 智史	秋学期
地域環境教育特論	森 太郎	春学期
地域環境教育特論演習	森 太郎	秋学期
地域社会環境特論	松田 隆典	春学期

大学院経済学研究科（博士前期課程）

科目名	担当教員	開講期
環境経済学特講Ⅰ	松下 京平	秋学期
環境経済学特講Ⅱ	松下 京平	春学期
経営環境分析特講Ⅰ	御手洗 久巳	春学期
経営環境分析特講Ⅱ	熊谷 直次	春学期
経営環境分析特講Ⅲ	御手洗 久巳	秋学期
経営環境分析特講Ⅳ	熊谷 直次	秋学期
経営環境分析特講Ⅴ	長谷川 正人, 森 健, 村上武, 福地 学, 又木 毅正	春学期

大学概要と本報告書の対象範囲

■大学概要

大学名：国立大学法人滋賀大学

所在地：滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号

学 長：位田隆一

構成員：総数 4,955 人※

■本報告書の対象範囲

期 間：2021年4月1日～2022年3月31日

構成員数：全構成員 4,955 人※

対象場所：彦根キャンパス（経済学部、データサイエンス学部）

大津キャンパス（教育学部）

膳所団地（教育学部附属中学校、小学校、幼稚園）

あかね団地（教育学部附属特別支援学校）

建物床面積：81,380㎡※

※施設実態報告（2022年度）による。

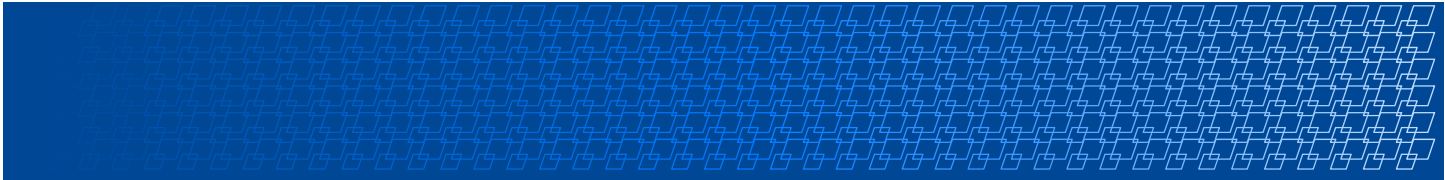
発行日：2023年3月

連絡先

国立大学法人滋賀大学 施設管理課

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号

TEL 0749-27-1016



国立大学法人滋賀大学

